

機関紙づくり

道本部教育情報部

谷川広美さん

「楽しく機関紙をつくってみよう!」というタイトルどおり、終始楽しく、かつ真剣に機関紙づくりに取り組んだ。

読み手に伝わりやすい機関紙づくりのコツや、レイアウトにおける禁じ手など、ここで授かった「極意」は今後の単組・総支部での機関紙づくりに継承していけるものだった。



(機関紙を作成する参加者)



(8時間に渡り生活・職場実態を出し合った)

グループディスカッション

3日間で合計約8時間も及びグループディスカッションで、仕事や組合以外の「気楽な」話もしながら独自要求闘争の流れを学習した。

今回は3グループに分かれ、それぞれの参加者がお互いに職場・生活のなかで思っていることや問題点を話し合う中から「ゆずれない」要求を確立した。

要求書もイチから作り、仮想当局に提出。ここまでの本格的に模擬団体交渉を行うのは初めての体験という

参加者がほとんどでだったが、時間が足りずに夜の交流会まで議論に熱中するグループもあったほど、あつという間のグループディスカッションだった。



(仮想当局に「ゆずれない」要求をぶつけた)

模擬団体交渉

ここまで寝食をともにしてきた仲間たちの思いを集約した独自要求書。これをもとに道本部役員の方々が扮する仮想当局に挑む、まさに

今回の青年コースの集大成。模擬団交とはいえ、さすがに道本部役員の方々はみな百戦錬磨、なかなか手厳しい交渉となったが、団体交渉にあたっての心構えやテクニクなどの指導を受けた。何より、独自要求書提出はその結果が大事なのでなく、仲間づくりや自分・仲間の思いの集約、事実の確認など、そこに至るまでの過程が最も大事だということを、身をもって学習できた。

【参加者の声】



札幌市職・中村さん

色々な職場の話が聞けました。単組によって勤務条件がこんなにも違うとは...。仲間の声を聞き、実態を把握する努力が常に必要だと感じました。

中央交いよいよ迫る

自治労青年女性中央大交流集会は、1978年の開催以来今年で16回を迎えます。

この集会はまず、職場の問題や仲間の思いを各単組・総支部で議論することから始まります。事前アンケートや職場レポートを活用し、部員ひとりひとりが抱える不安・不満・悩みなどを付け合わせ、仲間の声を集約し、中央交に持ち込みましょう。また、今後の闘争にむけ、部員みんなの要求を確立しましょう。

7月11日からの交流集会を通じて、全国の仲間と交流し、学びあい、北海道に持ち帰りましょう!!